



歴史の道 高野参詣道町石道

平安時代、空海が真言密教の根本道場として開創して以来、高野山は現世浄土として広く信仰を集めている。古くからこの聖地へ向かう道は幾本もあったが、それらは山に近づくにつれて合流、七つの道に集約されて山内に入っていく。その七つのうち九度山の慈尊院から山上西口の大門へ通じる表参道を町石道といい、開山のおり空海が木製の平塔婆を建てて道しるべとした道である。

鎌倉時代になって、朽ちた木の代わりに石造り五輪塔形の町石が一町（約109m）ごとに建てられた。町石は高さ3m、30cm角の花崗岩。山上の根本大塔を基点にし、慈尊院の石段途中を最後に180町石を建て、胎蔵界180尊にあて、さらに大塔から奥の院までの36町石を設け、金剛界37尊とした。現在も梵字が刻まれた町石が残っている。はるばる参拝にこられた人々は、空海自身が登ったこの道にたどり着いたとき、どんな心持だっただろう。37尊、180尊を表す町石自体が信仰の対象で、1町ごとに合掌しながら登山したという。天皇、上皇から庶民まで参拝登山したこの道は、まさしく祈りの道、信仰の道であった。

さて、山上は天下の霊場117の寺院や堂塔大伽藍があり、天然記念物でもある奥の院参道の杉並木の下には、諸大名をはじめとする数十万基の供養碑や歌碑、句碑がひっそりと立ちならび、心鎮まる別世界である。奥の院は大師信仰の聖域で、空海の廟所までの約2kmにわたる杉並木の参道が続き、重要文化財指定の経堂や、貧女の一燈がとる燈籠堂などがある。

金剛峯寺は全国に3600寺もある高野山真言宗の総本山で豊臣秀吉が母の菩提を弔うために建てた松皮葺きの荘厳な建物。壇上伽藍は、本尊胎蔵界大日如来と金剛界四仏を安置する巨大な根本大塔を中心として、御影堂、金堂などが立ち並ぶ。宇治平等院を模した優美な霊宝館は、山内諸寺に伝わる25,000点もの文化財を保管、展示している。国宝や重要文化財も多い。大門は高野山の総門で5間重層の表参道の大樓門。高野山町石道は、なお、ここから山内に入り、奥の院参道をへて御廟にいたる。この道は、平成16年7月に世界遺産に登録された。

Table with 4 columns: 町石番号 (Townstone Number), エリア (Area), 町石数 (Number of Townstones), 町石数 (Number of Townstones). It lists the distribution of townstones across different areas of the mountain.

高野七口 (高野参詣道)

弘法大師空海入定以来、高野山浄土信仰の広まりとともに、人々の参拝が盛んになり、参拝者がたどった高野山への道で、主な七つの道を高野七口とよばれていた。なお、高野山は女人禁制であったため女性は山内に入らず、各入口には女性のための籠り堂として女人堂がつくられ、女人信者は御廟を拝みたいと入蓮華の峰々をめぐる女人道をたどったといわれている。現在是不動坂口のみ女人堂が残っているが、他の入口にも女人堂跡が残っている。

- 1 大門 西口、大門また矢立口といわれ、和歌山口、麻生口を含む。
2 不動坂口 京口また学文路方面道を集約したもの。
3 黒河 大和口または粉嶺峠口ともいわれていた道。
4 龍神 湯川口、保田口、梁瀬口ともいわれていた道。
5 相の浦口 南谷方面を指し、水上峠、大松峠などの道。
6 大滝 熊野口ともいい、南のろくろ峠を含む。
7 大峰口 東口、野川口を含む。



高野参詣道町石道 (世界遺産) と五輪塔
仏教では、「宇宙を形成する物質は、空・風・火・水・地の五つの要素からなる。」と説かれている。この五つの構成要素を宝珠、半月、笠、円、方形にかたどったものが五輪塔である。それぞれの部分に空・風・火・水・地を意味する梵字(サンスクリット文字)が刻まれている。奥の院参道には、多くの五輪塔形の墓碑が見受けられる。

～高野参詣道町石道をみんなで守りましょう～
世界遺産は人類にとって共通のかけがえない宝物であり、私たちが未来の人々に引き継いでいかなければならない貴重な文化財やすばらしい自然です。町石道を傷付けず大切に歩きましょう。異常を見かけたら裏面のお問い合わせまでお知らせください。

